



いずみに集う

第 10 号
2025 年 8 月 3 日



発行:小田急金森泉自治会館建設委員会

会館建設予定地の整備

会館建設予定地には、ふれあいもみじ館で
使用している電線・電柱があります。これは会
館建設前に町田市が移設することとなってい
ますが、その整備予算が確保されていないた
め、会館建設に着手できない状況が続いてい
ます。来年度こそは、電線類が移設されるよう
町田市への働きかけを続けています。

地盤調査実施の背景

会館の設計や建設費用の概算を進めるため、
会館建設委員会では様々な情報収集を行って
います。その一環として、会館建設予定地の地
盤調査を市との調整の上、実施しました。予定
地はかつて谷の地形で、埋め立てて造成した
ことが知られている場所です。会館建設にあた
り、地盤補強が求められることが予測されます
ので、どの程度の規模で地盤補強をすべきかを
探り、予算配分にも反映させる必要がありまし
た。

会館は木造平屋建てとなる予定で、建築物
としては比較的軽量なものですが、大きな地震
が発生した際も変わらずに機能するためには、
しっかりした地盤の上に建設することはとても
重要です。

調査の結果

事前の予想通り、補強が必要な地盤と評価
されました。現在の地盤に建物を乗せると、建
物の重みで沈下していく自沈層があること、し
かもその自沈層は場所によって堆積状況が異
なることがわかりました。

建物基礎の下に柱状のコンクリートの杭を作
り・補強する「杭状地盤補強」をすることになり
ます。現在の地表面から 5m ほどの深さまで杭
を入れることで十分な強度が得られると見込ま
れます。町田市内ではこの規模の地盤改良は
よく行われていて、ごく一般的なものだそうです。

もし地盤強化しないと

地盤強化は法令でもきちんと実施するよう
に定められていますが、もしこれを実施しないと
大きな地震が発生した際に、建物下の地盤
沈下が起きる可能性が高くなります。場所によ
って沈む量は異なるので、建物が傾いたり、
倒壊したりする危険が生じます。普段から安心
して過ごせる集いの場として利用し、万が一の
発災時には災害支援拠点となるよう準備を進
めていきます。

やらなくてはならない作業はたくさんありますが、泉地区の将来像を描
いていく良い機会でもあります。

皆さんが集まってやりたいこと、会館利用のアイデアについてこれか
らもどんどんお寄せ下さい。

会館の設立や運営について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。